


地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営			
1.理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らし暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者様の心身状況・身体能力を見極め、公平かつ安心・安全な毎日を送っていただけるようサービスを提供しています。介護と医療の連携はもちろん、大木町役場や福祉サービスとの協力のもと利用者様が地域密着で元気に過ごすことができるよう心がけて支援してします。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所独自でつくりあげた理念を各棟に提示し、毎朝、唱和を行っています。	今までもそして今後に向けても職員は三つのキーワードをあげて取り組んでいきたいと思ひます。 利用者様に着眼する。 業務に集中する。 朝日苑の和を大切にす。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	来苑された方の目に留まりやすい場所に提示しており、外部の方に対してはパンフレットにて紹介しています。	朝日苑より広報紙を発行し、紙面で紹介、浸透させていきたいと思ひております。
2.地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	訪問した所や行き交う人々とのあいさつを基本として、そこから発展する会話を大切にしています。	地域のより多くの住民の方に朝日苑を知っていただきたいと思ひます。近隣のお店などとも、お付き合いを重ねる度に、なじみの関係ができればよいと思ひます。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の区長さん、民生委員さん、町役場を通して地域の方々と交流を持つように努めています。苑での月の行事にはご家族や子供会を招待させていただきました。	ボランティア委員会の立ち上げにより、これからはさらに、保育園、老人会の皆さんとの交流の機会を増やし、地域の方々と時間を共有していこうと思ひております。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	利用者様の御家族・知人・友人・ご近所の方など来苑された折、運営者又は職員は色々な課題を共有したり、情報を交換することに努めています。それによって地域の高齢者の様子も伺い知ることができればと思います。		これから朝日苑の行事を通して地域の高齢者の方にも楽しんで頂ける様な機会を持ちたいと思います。
3.理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員に現状評価の大切さを伝え、一人ひとりが取り組みました。足りない部分をきちんと把握し今後の向上につなげていきたいと思っています。		ボランティア委員会・リスクマネジメント委員会・広報委員会・園芸委員会を立ち上げ、活動を開始しています。現状評価を生かし、内容を深めていけるように努めたいと思います。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各分野の五名の委員さんと運営者・役職者によって二か月に一回、委員会を開催し、毎回充実した内容となっています。議事録は必ず、職員全体会議で報告し、実践が伴ったサービス向上に生かしています。		現状を積み重ねていこうと思います。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	様々な手続き・相談を通じ、大木町役場担当者へ行き来する機会を持っています。		今後も大木町役場担当者の方の協力と助言をいただき、サービスの質の向上に努めていきます。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	具体的に必要とする人の訴えもなく、まだ活用が不十分です。		今後セミナーなどの参加を積極的に行い、運営推進委員の社会福祉士との情報や助言を得ながら理解を深めていこうと思います。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアル化することにより、虐待につながる行為の防止はもちろん、利用者様・ご家族の不安や心配が少しでも軽減されるようにコミュニケーションを怠らないよう気を配っています。職員全員に徹底するようミーティングにて確認しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだし解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項説明書・契約書をもとに十分な説明を行います。その際、親切という気持ちを忘れないようにしています。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者様やご家族から常日頃、要望を話していただけるような言葉かけをしております。</p>		<p>玄関にご家族の訪問名簿と一緒にご意見を書き添った箱を設けて対応が遅れないように努めていきたいと思っております。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>連絡ノートを作ったりお小遣い帳、ケース記録の開示、ケアプランに関するサービス担当者会議などにより細かく報告できるように準備・対応をしています。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情や不満の申し出に対しては、ご指摘ありがとうございます、という気持ちで納得されるまで解決に努力しています。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月、各棟ミーティング・管理者会議・役職者会議・全体会議の手順を経て、隔々にまで一貫した考えが浸透するように配慮しています。また職員の考えを拾い上げ、検討していくよう努めています。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>公休希望・宿直・夜勤回数を含み、業務に差し支えない様、多方面からの調整を行っています。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者様が増えるに連れ職員も、随時増員してきたため、どうしても配置転換が必要となりました。また、退職した職員も数名おります。その都度、気を配ってきましたので、今の所、それによるダメージは無いと思われまます。</p>		<p>できるだけ同じ職員による利用者様への関わりを続けていけるように努めていきたいと思っております。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援			
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	採用にあたっては面接を行い、働く条件に合った方を採用しています。事業所の職員についても職員の能力が十分に發揮できるように、自由に意見の言える雰囲気づくりを心がけています。	
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	特別に研修はしていませんが、職員等に対して事業所の理念などについて随時伝えています。	
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	これまで外部研修の案内に応じて希望者または、適任者を選び受講させています。その度、研修レポートを書き全体会議で発表しています。	偏らず、全職員が受講できるよう計画化していきます。
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	ケアマネージャー・管理者連絡会を通し意見交換会を行っています。また、見学の申し出があった時は快く応じ座談会を設けています。	他ホームの見学などもお願いして勉強させていただきたいと思っています。それによって双方がお互いに成長していければよいと考えています。
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	運営者として必要に応じ、職員の個別面談を行っています。現場での悩みや不満は管理者もできる限り対応し、場合によっては各棟の管理者で問題を共有し解決していくよう心がけています。	全館にBGMとして静かな音楽を流すなどします。
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう努めている</p>	心の奥を思いやる気持ちを持ち続けることが、お互いの信頼感を強くすること、何々ができていないより何々ができたと良いことをより大きく評価していくこと、事実を正しく把握することを指導しています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人との面会の機会を大切に、ゆっくりと話を聞く事が出来るよう努めています。前事業所からの情報提供をお願いし、より多くの情報を持って面談できるよう努めています。</p>	
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談時より、できるだけ本心を話していただける雰囲気づくりに努めています。必要時には何度も話を伺う場や、ご家族のみでの話の場を作っています。</p>	<p>本人とは異なるであろう家族のニーズを把握し、本人のニーズとの調整ができるよう、より話しやすい場の提供に努めていきます。</p>
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ADLのみではなく、心身の状態全体をとらえて対応できるように努めていますが、他事業所との連携では情報が、まだ不十分な点があります。</p>	<p>相談時に必要なサービスを見極め、他のサービス利用の提案もできるよう、他事業所の情報収集や連携をもてるようにします。</p>
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用に不安がある方には、見学を通して施設の雰囲気を味わっていただけるようにしています。また、利用開始当初は特にご家族の方との連絡を密にし、情報交換に努めています。</p>	
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>本人とよりよいコミュニケーションを取るために、受容・傾聴・共感を心がけ、積極的に行動しています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時に必ず、日々様子を伝え、職員と御家族の本人に対する思いを共有できるように努めています。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるよう支援している	本人とご家族との関係が、途切れぬよう行事への声かけ等を行っています。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている	本人の知人等が来苑された時、常に笑顔での挨拶を心がけ、居心地の良い雰囲気づくりに努めています。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるよう努めている	利用者一人ひとりの役割をつかみ、お世話されるだけでなくお世話する関わり方をさせていただき、仲間意識を持ってもらうよう努めています。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了されても、本人とご家族へ行事の参加の声かけ等を行い、関係をなくさないようにしていきます。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>初回面談時より、本人・ご家族の意向を聞き取れるよう努めています。</p>	<p>センター方式導入により担当だけでなく、全職員によるアセスメントを行い、一人ひとりの思いや暮らし方の希望の把握に努めていきます。</p>
36	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>日々の介護の中で得た情報や面会時のご家族からの情報を介護経過に記録として残しています。</p>	<p>センター方式導入に伴い、グループホーム、小規模において記録方法を統一しました。日々の記録の中から本人の馴染みの暮らしを把握していきます。</p>
37	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>各職員による記録の徹底に努め、勤務以外の職員も後で現状が把握できるようにしています。</p>	<p>申し送りの徹底をさらに図り、できないことではなく、できることに注目できるよう職員に周知していきます。</p>
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>状態把握には現場職員・ご家族の方の情報が必須です。随時、情報収集に努め、介護計画に反映できるようにしています。</p>	<p>担当職員だけでなく、センター方式導入にて、全職員でのアセスメントを行い、介護計画の作成に役立てていきます。</p>
39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>状態変化時には、ただちにケアプランの変更を検討しています。また見直し時には、ご家族の意見をいただき、説明時、納得いただけない場合は、ご家族の意見を反映したプランへ変更し、ご家族の承認をいただいています。</p>	<p>センター方式導入中。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各職員がケアにあたった際の様子を毎日個別記録に記入し、また申し送りを行うことで、他の職員も統一したケアを行うことができ、それを基に介護計画に反映しています。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者様一人ひとりの考えやペースで一日を過ごされ、皆との時間、一人の時間をうまく使い、穏やかに楽しく暮らしていただけるようご家族の意向も取り入れながら個別の対応に心がけています。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	それぞれの分野で交流を持ち良い関係があります。民生委員さんを通じ紹介していただいたボランティアグループによる演芸会を催したり、消防訓練・警察パトロール、さらに郷土の文化に触れるバスハイクなどを行っています。		これからもチームが協力しながら多様な支援ができるよう努力していきたいと思います。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	基本的に他のサービスについての相談や利用意向をお断りはしていません。必要時には他事業所の利用も提案しています。町の高齢者福祉サービスの情報提供を行っています。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターから利用者様の紹介を多くいただいています。受け入れ困難な事例については、その旨を伝え共に検討しています。		今後、当事業所だけでは困難な事例も出てくると考えられます。地域包括支援センターとの連携もより強くしていきたいと思います。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を希望される方、又は当松本医院を希望される方、協力病院を利用する方、それぞれに御本人・ご家族の意向を大切にしてお応えしております。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	今までその事例はありません。		認知症の治療改善に目を向けて専門医の受診も支援していきたいと思っております。
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	毎日のバイタル測定や表情、活動など少しでも変化があった時や疑問点は、すぐに看護師へ相談し、また当医院へも相談しています。		
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	グループホームでは入院された際、できるだけ面会をすることで利用者様の状態把握に努め、退院後は入院時より食事を増やすことができました。		グループホームでは、ご家族の意向があれば一定の入院期間が可能ですが、小規模では困難です。入院時、退院後の本人・ご家族の不安軽減に努めると共に医療機関との連携に努めていきたいです。
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	98才の利用者様の終末に立会いました。当事業所をとても気に入っておられ、ご家族も同様で頼りにされておりました。ターミナルまでのお世話を決め、医師・看護職員・介護職員の協力のもとに前日まで自分で食事をとられ、眠るように安らかな最後でした。		ここで死にたい、又は最後までここにさせて下さいという声を聞くたびに、その方の良い人生のサポートに大きな責任を感じずにはいられません。
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	当事業所での終末を希望されるのであれば、その状況を検討しながら残された日を最良と思える様、できるだけ不安を取り除いてさしあげたいという気持ちで医療面・介護面で連携を取りながら支援しています。職員は利用者様と向き合うことを恐れることなく自分のできることを確実に行うように指導しています。		あらゆる面での対応が考えられるので、一つ一つの経験を大切に今後生かしていきたいと思っております。そして、これらの経験が職員のレベルアップにつながるものと思っております。
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えといっても、ご家族の意向が大きいのが現実です。別の居所へ行かれる時は、当医院を含め情報提供に努めました。また、小規模からグループホームへ住み替えられた時にはスムーズに情報の共有ができ、混乱なくホームに馴染んでいただくことができました。		当ホームへ入所の方、別の居所へ移り住む方共、情報収集、情報提供に努め、本人が可能な限りダメージをうけることなく、移り住めるよう援助していきたいと思っております。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>人生の先輩と位置づけ、常に尊敬の念を持って接するよう心がけています。個人情報やお小遣いの出入れに関しては丁寧に取り扱い、鍵付の場所に保管して管理を怠らないようにしています。</p>	<p>一日も気を緩めることなく続けていけるようミーティングで確認していきます。</p>
53	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたりわかる力に合わせた説明を行い、自分で決めた納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>何をしてあげたかではなく、利用者様は何を望まれているか、何を嬉しいと感じられるかを常に気をとめて、利用者様に着眼しています。それによって、適切な介護支援をしていくよう努めています。</p>	
54	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>今、どうすればよいか、判断力・選択能力が大切と思われます。自分の業務に集中するように努めています。</p>	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>定期的に理美容師さんに訪問していただき、希望される方にサービスを受けていただくようにしています。本人御希望の床屋さんにもお連れすることもあります。日課として、洗顔・歯磨き・整髪・身だしなみにはできる限り時間を取って、お手伝いしています。</p>	<p>お化粧品をしていただくことで、美しさを取り戻して喜びを感じていただけるような機会も作っていきたいと思っています。</p>
56	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事前の嚥下体操を楽しんで行えるようにしています。職員は同じテーブルで食事を共にし、ホスピタリティ(いたわり・ねぎらい・思いやり)の気持ちで接しています。</p>	<p>温かいものは温く、冷たいものは冷たく提供していきます。</p>
57	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>利用者様が自宅にいる時と同様に楽しめるよう支援しています。</p>	<p>利用者様に意見を求め、献立・おやつに取り入れていきます。満足感を持っていただけるよう心がけていきたいと思っています。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を作成して、一人ひとりの排泄パターンを把握し、その方に合う排泄介助を行っています。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できるようにし、本人の希望に合わせて入浴していただけるよう努めています。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間良眠していただけるように日中活動の手助けを行っています。そして、一人ひとりの状態に合わせたペースづくりを心がけています。		申し送りノートを作成し、情報の共有化に努めていきます。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員とコミュニケーションをとりながら、ちぎし絵、折り紙、毎月のカレンダー作成など希望される方には計算ドリル、音読などをとりいれています。		毎月、一つの作品を皆様と職員と共に作り上げています。
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全額管理している方もいますが、小額は本人手持ちの方もいます。外出の時、自分の好きなものを買っていただくようにしています。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や本人の体調や希望に応じて、苑外の散歩及び併設の施設の利用など個別に行っています。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している	安全 安心して楽しんでいただけるように計画を立て、月一回はドライブを行っています。四季折々の季節感を存分に感じていただくため、食事会・花見会・催し物への参加を行っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時には電話をかける援助を行っています。手紙もそばで支援しながら書いていただいています。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	御希望に合わせ訪問していただいています。いつ訪問されても変わらない笑顔での対応に努めています。		訪問者様が利用者様の家を訪問された気持ちでゆっくり過ごしていただける様にさらに努めたいと思います。
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護をする上で基本となることであるので、職員が協力し合い、見守りを徹底することで身体拘束をしない取り組みを続けています。職員ミーティングにおいてもその確認をしています。		身体拘束の具体的な事例を知る必要もあるかと思われるので、今後、専門家の話など聞く機会を設けたいと思っています。
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	数名の方に強い帰宅願望があった為、開設してしばらくの間、玄関ドアを開放することができませんでした。時期を見て、開放したところ、気持ちが落ち着かれ、職員全てがホッとしたことを覚えています。さらに見守りを怠らないようにして現在は夜間以外開放しています。		これからも新しい利用者様をお迎えした時は、充分その方の行動パターンや気持ちに着眼して、開放した場所で安全に過ごして頂けるように見守っていきたいと思います。
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中、レクリエーションを行いながら、全員の様子を把握するように努めています。夜間は細めな巡視を行い、安全に配慮しています。		個人ノートを作成し、職員間統一したケアを行えるようにしています。
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入所時、持ち物チェック表に記入していただき、個別に把握をしています。今後その時の状態に応じて対応を行っていきます。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態に合わせた対応を行い、事故防止に取り組んでいます。ヒヤリハット事故報告書の作成を行い、今後事故をなくすよう努めています。		リスクマネジメント委員会の立ち上げにより、毎月ミーティングを行い、できるだけ事故を防ぐための分析を行い、その実施を徹底させていきます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルは作成してありますが救急救命法等の具体的な学習はまだ行っていません。		消防署の協力を得て、救急手当で蘇生術の研修に取り組んでいきたいと思っております。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、避難訓練を実施し、消防訓練との連携をとって、全職員が災害時の対応ができるよう努めています。防火設備のメンテナンスを定期的に受けています。非常食の準備もしています。		消防署の協力を得て、避難時の支援方法の指導をうける事にしています。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ベッド上での体動が多く、転落の危険の高い方はご家族へ説明をし、畳での対応を行っています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタル測定、毎食の食事摂取量を記録し、体調の変化や異変の早期発見に努めています。変化があれば、すぐに看護師へ報告しています。		緊急時等の対応の仕方や報告の流れを定期的に復習していきたいと思っております。
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は看護師が行っています。内服薬は薬局より一包化にし、氏名・日付・服薬時まで記入していただいています。薬の目的・副作用等については、カルテに綴じ分かるようにしています。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	利用者一人ひとりの排便状況をチェックしています。繊維の多い野菜を多く食事につけていただいています。日中のレクリエーションの中でラジオ体操や軽い運動を取り入れています。		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、個人の歯ブラシ、歯磨き粉にて口腔ケアを行っています。一人でできない利用者様には支援しています。		これからも研修会に参加・受講し、正しい口腔ケアの知識を深め利用者様を支援していきたいと思っております。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通して確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員全員が知識や意識を持ち、利用者様一人ひとりが暮らし全体を通して必要な食事や水分が取れるように支援していきます。		食事時はもちろん、10時、15時、入浴後に水分補給をしていただくようさらに気配りをしていきます。
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	利用者様・職員には、食事前、トイレ後はハンドソープで手洗いをしていただき、ペーパータオルで手を拭き、アルコールで消毒してもらっています。御家族または外部からこられた方も入り口にアルコールを置いているので消毒をお願いします。		月に一度の全体ミーティングの中で全職員の感染に関する意識レベルの向上を行っていきます。
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫内を定期的に清掃し、まな板の漂白を行い、消費期限切れの食材の処分など実施しています。おいしさプラス安全な食事サービスを提供しています。		肉・魚・卵の中心温度を測る(79以上)、保存食を14日間、保存する。調理後、2時間以内に提供していきます。
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	田園風景の中に建物はありますが、そこからは民家・スーパー・コンビニなど人のにぎわいも感じることができます。玄関まわりは植栽・スロープ・安全のためのフェンスなど建物にマッチするようしつらえました。ホッとする温かさを心がけて作りました。		園芸委員による草取りや花植え、野菜栽培などの活動を進めてまいります。また建物の外周も先定期的に清掃して美しく維持するよう努めていきます。
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないよう配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく広くはもちろん、清潔に使っていただけるよう掃除しやすく、収納のスペースにも気を配りました。家の温もりや安らぎを感じていただけるよう家具や部屋の飾りつけをしています。		現在、台風の被害を考え、南面に雨戸の設置工事を行っています。
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	安全性を配慮しながらも、ある程度の変化を持たせています。スロープや階段、又畳敷きのスペースなど一人ひとりの思いを大切に考えるようにしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は全室、南向きと東向きに作りました。エアコンを完備し、荷物をゆったりと収納できる大きめのクローゼットを設けています。あとは利用者様の思いのままに部屋づくりをなさっています。		
86	換気 空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	建物の構造において高気密・高換気システムを取り入れ、部屋の空気が数時間で入れ替わるようになっております。また窓はすべて二重サッシを用い、外気を遮断することによって部屋の温度は保たれ、結露によるカビの発生もありません。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物全館に渡り、手すり・バリアフリーなど安全性には配慮しており、自分で用事が済ませる喜びを持っていただきたいと思っています。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	食事作り・配膳・後片付け・モップかけ・洗濯干したたみ、皆さん楽しんでお手伝いして下さいます。そんな時は会話もはずんでにぎやかに過ごされています。		センター方式によるアセスメントに職員全員で取り組んでいます。一人ひとりの問題点・改善点を把握し、介護に生かしていきたいと思っています。
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり活動できるように活かしている	南面には各所にベランダを設け、外気浴や花の水やりなどを楽しんでいただいています。		園芸委員・園芸クラブの活動を始めたいと思っています。四季折々の花や野菜づくりを楽しみ、収穫祭など夢を膨らませております。

.サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の
		利用者の 2/3 くらいの
		利用者の 1/3 くらいの
		ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある
		数日に1回程度ある
		たまにある
		ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が
		利用者の 2/3 くらいが
		利用者の 1/3 くらいが
		ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が
		利用者の 2/3 くらいが
		利用者の 1/3 くらいが
		ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が
		利用者の 2/3 くらいが
		利用者の 1/3 くらいが
		ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が
		利用者の 2/3 くらいが
		利用者の 1/3 くらいが
		ほとんどいない
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が
		利用者の 2/3 くらいが
		利用者の 1/3 くらいが
		ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と
		家族の 2/3 くらいと
		家族の 1/3 くらいと
		ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くない	
100	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【時に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

1. 毎月の貼り絵制作を通して生活にハリを持ってもらい、完成することで達成感を味わっていただいています。
来月の貼り絵は、北斎の富嶽三十六景 神奈川沖浪裏に挑戦します。
2. 毎月の行事及び外出により外部とのふれあいを通して生活の活性化を図っています。
3. 独自の嚙下体操を実施し、意欲を持って取り組んでいただいています。